

人は建物じゃなくて人に集まる

— 陳善の有難にかかわらず、赤ちゃんから年寄りまで預かるスタイルは画期的でした。

惣万 これが自然とか、日本の文化であるとか、相乗効果があるとか言うてきたけど、もともと看護の対象はすべての人、看護師だった私たちは、自然と最初からそうしよと思っとなつた。まさか、福祉がこんなに繋がり強いとはねえ。

— 問題はないのですか。

惣万 パニックになつて認知症が悪化する、っていう患者もいるがやけど、本当にそうなら13年も続けられんわ。リハビリせんでも、しゃべったり笑ったりしてよう動かれるし、結果の進行は遅いよね。

介護を支援

— 介護体験がありとか、惣万 リウマチの母が余命半年と言われて寝たきりになつて15年、ベッドを間に置いて、兄嫁中心に介護した。周りで家族がテレビ見て、食事する。会話はあまる。孫の姿も見られる。母は生き生きしよつた。その一方で、看護師時代は、よくなつて退院しても家族が介護しきれず、施設で寂しく死なれるお年寄りをよく見よつた。それで西村さんに声をかけて、在宅介護を支援する仕事を始めた。

— ペテラン看護師でした。惣万 1人は家庭の事情でこころを病めたけど、今も一緒にやつてる西村は看護学校の後輩。彼女は、定年まで日赤で働く人生活計たし、重要なポストでもおつたがやけど、「一緒にやらないか」と言われた。

「このゆびと一まれ」の事務所は、民間デイサービス育成事業の委託を受け、補助金を受けていたが、経営は厳しく、寄付金頼みだった。

NPO法人「このゆびと一まれ」 惣万佳代子理事長

フロントランナー

— 補助金を断つたとか。惣万 たくまじさといおうか、鈍感力(おちか)笑)。病院の整形外科部長から「はかあはまぬけの老人」て言われたわ。「事業は、そんな甘つちよる(こと)言つてはでせん」と。たしかに、介護保険の事業者になるまではつかつたわ。

— 運転資金は借金、オープン2カ月後にNHKで取り上げられたら、全国から「つおきないで」と一千万円以上寄付が集まつた。それでも利用者は1日平均1・8人、1カ月の収入は12万18万円。経費を引いたら数万円しか残らん。給料袋にお金入れて、途中でお金なくなくなつて、何日か遅れてあつた。給料は、今も現金で渡してる。

退職金で建てた「このゆびと一まれ」。惣万さんと西村和美さん(右)は、階に住むが、自室は就寝に使うこともまれ。明るく慎重な西村さんと名コンビだ

「いつつぶれるかわかんよろな(こと)に、いつまでも補助金は出せせん」

介護保険導入を前年98年、県は民営デイケアハウスへの補助金打ち切りを決めた。その撤回を求めて陳情に訪れた代表者たちは、厚生部長の言葉に顔を赤らせた。「鬼代官めー」。惣万さんの目にも涙があつた。しかし、厚生部長は続けて言

「このゆびと一まれ」の開所から5年。利用者が増えきた98年からは県の「在宅障害児(者)デイケア事業」、97年か



私たちが職員が、お互いに感謝するいい機会やから。— 「断らない」が信条。

惣万 最初は断るどころか来んかつたんだけど(笑)。当時の特養や老健の利用料は、1日6000〜7000円。うち、利用料2500円(5人)飯代3千円。5倍も高いに采られたのは、休日関係なく朝早から夕方まで仕事の自営業の人たち。うちは朝7時から午後6時まで、時には8時まであるし、年中無休やから、だいぶ高いがやけど、(こ)がいい、と。

— 職員に求めることは。惣万 人間くさい人がいいね。感性を磨いて、常に利用者サイドに立ってほしいわ。黒衣になつて、自然な形で、お年寄りや子供たち、障害児と健常児をかかわらせてほしい。新人がきても、マニュアルもオリエンテーションもないがやけど、何日間か先輩について一緒に仕事しながら覚えてもらつてる。

二一スが先

惣万 研修にいられた人が、うちの職員は、同僚の悪口も、上司の悪口も言わんと無いところ。職員同士、ものすごい仲いいが、よう考えたら、むしろ悪口言わんわね。

— 制度改善に積極的に取り組んできました。惣万 行政にとっては、目の上のたんこぶみたいなのがやつたら

ね。一緒に作った富山型デイサービスが、昨秋から全国で実現しやすくなつたのはうれしかったけど、富山型は行政が積極的に進めてくれたのもいいが、理念に共感してくれて、思いがある人がいないと続かないもの。ただ、やりたい人がおつたら、止めることはせんましよ。

惣万 二一スに柔軟に対応して活動して、あとから制度をつくりあげてく。これこそがNPOの役割だと思ふが。ただ、もともと利益が上がるようなことやらんの、法人税率40%は高い。下げても半額かね。職員の給料上げてやりたいわ。

お年寄りまで預かる「富山型」を維持したまま、経営は安定した。利用者負担が半額以下になる一方で、収入は約3倍に増え、若くて優秀なスタッフを多数雇えるようになった。

「にぎやか」な他のデイケア仲間たちも法人格を取得。翌年、介護保険制度が始まる、そらつて指定事業者になつた。「結局、あれは、いいアドバイザーだったし、いい渡つた」。県の配慮もあり、子どもから

補助金打ち切り通告に流した悔し涙

「このゆびと一まれ」の開所から5年。利用者が増えきた98年からは県の「在宅障害児(者)デイケア事業」、97年か

「このゆびと一まれ」の開所から5年。利用者が増えきた98年からは県の「在宅障害児(者)デイケア事業」、97年か

「このゆびと一まれ」の開所から5年。利用者が増えきた98年からは県の「在宅障害児(者)デイケア事業」、97年か

「このゆびと一まれ」の開所から5年。利用者が増えきた98年からは県の「在宅障害児(者)デイケア事業」、97年か